

湯河原ロータリークラブ

WEEKLY REPORT



ロータリー： 変化をもたらす

第 2701回 例会
平成29年12月15日(金)
天候 曇り
合唱 それでこそロータリー
四つのテスト

会長 石倉 幸久

幹事 渡辺 久恭

事務所 神奈川県足柄下郡湯河原町宮上566湯河原温泉観光協会内
TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716

例会場 静岡県熱海市泉107 ニューウェルシティ湯河原
TEL 0465(63)3721 FAX 0465(63)6401

例会日 毎週金曜日 12:30~13:30

会長挨拶

福岡県にある大牟田市動物園は、最盛期には年間40万人いた来園者数が、04年には13万人にまで減少したものの、06年に運営主体を行政から民間に変更して再スタートしたところ、来園者数はV字回復に転じ、16年には25万人を突破するまでになったそうです。

V字回復の要因はいくつか挙げられますが、何より、現園長の椎原氏が掲げている「動物福祉を伝える動物園」というコンセプトの素晴らしさによるものが大きいように思えます。商業・効率優先ではなく、飼育動物が幸せに居られるためにはどうしたら良いか、来園者と一緒に考えていきたいというスタンスなのです。

このスタンスにのっとり、例えば、採血ひとつとっても、決して無理強いをせず、少しずつ飼育員と動物の信頼関係を築いていくことで、時間はかかるものの、最終的には動物の方から採血のために寄ってきて、手足や尻尾を差し出すのだそうです。

こうした取組みを対外的に発信することで、共感するスタッフや来園者が集まり、V字回復に繋がっているようです。

大牟田動物園の事例は、「効率や儲けのために、何かを犠牲にする」のではなく、多少時間はかかっても、「みんなが幸せに居られるように考えることが、商売の好循環を生む」のだ、ということを示しているように思えます。

幹事報告

ガバナーより

- 2018-19年度実施プロジェクト向け「第2回地区補助金説明会」のご案内
日時：1月27日(土)13時~15時
場所：第一相澤ビル8階「会議室」
登録締切：1月19日(金)

連絡事項

- 次週の例会ではクリスマスケーキをお配りします。

スマイルBOX

結婚記念日 渡辺久恭君(12/20)

第9グループIM実行委員長 河野英次君(足柄RC)

本日はお世話になります。来年、1月26日のIMのPRにまいりました。神谷ガバナー補佐、伊場野さんに大変お世話になっています。よろしくお願ひ致します。

神谷一博君

IM実行委員長河野英次様、本日は湯河原ロータリークラブへようこそ。1/26(金)のIM合同例会、出席率向上に向け、日頃ありがとうございます。

西山敦君

12/15、今日は五所神社境内で歳の市が開かれています。4時頃から9時頃まで開いていますので、来年の準備にお参り、散歩がてらお出掛け下さい。

出席報告	ゲスト 1名	ビジター 1名	会員24名
	欠席3(免除者0名)	前回の修正出席率95.83%	
	出席率87.50%		前々回の修正出席率100.0%

事前メイクアップ 0名

ゲスト 町立湯河原美術館 学芸員 杉山茂樹様

ビジター 第9グループIM実行委員長
河野英次君(足柄RC)

湯河原ゆかりの画家

町立湯河原美術館 学芸員 杉山茂樹様
湯河原は温暖な気候や静かな環境などの理由から、多くの画家が訪れています。残された作品を収集、展示、また保存して後世に残すため、平成10年10月に美術館が開館しました。当時は湯河原ゆかりの美術館という名前でした。8年目にリニューアルをしまして、現代日本画家、平松礼二の作品を紹介する平松礼二館を新設しています。美術館の建物は元々天野屋本館の一番新しい棟で、昭和33年に建てられたものです。その内装を変え、美術館として使用しています。外観の赤レンガや館内の部分は当時のものをそのまま使用しており、昭和のモダンな雰囲気を感じられる美術館となっています。

ゆかりの画家の筆頭として挙げられるのが竹内栖鳳です。京都出身で近代京都画壇の中心として活躍した日本画家です。「東の大観、西の栖鳳」と言われ、大観と共に第1回の文化勲章を受章しました。ずっと京都で活動してきましたが、昭和6年、湯治のために湯河原を訪れた栖鳳は、以降たびたび滞在するようになります。湯河原が気に入った栖鳳は、天野屋新館の敷地内に住居兼画室、「也万茂々庵（やまももあん）」を建てました。京都に家を残したまま亡くなるまでの11年間をここで過ごしています。

栖鳳は身近にいる小動物を描くのを得意としており、実際に飼育や観察をしてスケッチを重ねました。金屏風に雀だけを描いた「喜雀」や「宇佐幾」といった作品で生物の生き生きとした姿を描いています。

次に紹介するのが安井曾太郎です。昭和を代表する洋画家で、栖鳳と同じ京都出身の画家です。昭和24年栖鳳が亡くなった後の画室に拠点を移し、そこで5年ほど過ごしました。その後、別に自宅を新築しますが、そちらに移ってからは1年たたないうちに病気にかかり亡くなってしまいます。画室から見た風景を描いた「赤き橋の見える風景」は5年間お世話になった天野屋のために描いた作品です。

矢部友衛は昭和19年、疎開で湯河原に来て、戦後の昭和28年までの9年間を過ごしました。地域に溶け込み、近所の人々の肖像画や近隣の風景、労働者を描いた作品が数多く残されています。

三宅克己は、後半生を真鶴で過ごし、周辺の風景を作品にしています。安井、矢部とともに湯河原美術協会の設立に尽力し、顧問として参加しました。明治期の水彩画ブームを牽引した画家です。「相州真鶴港全景」は静かな港町の穏やかな日常を感じさせる作品です。

富田通雄は今まで紹介した画家と異なり、湯河原出身の画家です。東京で銀行員として働きながら絵を描いていましたが、後に退職し、画業に専念しました。生まれ育った吉浜の風景などを多く残すほか、水彩画の普及にも力を注ぎました。

その他の画家として4人名前を挙げます。伊東深木は湯河原に住んでいたわけではありません。有名な美人画家ですので、旅館街の芸者などを写生に来ていたそうです。立石春美、加藤晨明、高木義夫は湯河原に住み、日展で活躍した画家です。

平松礼二は、平成18年の平松礼二館開館以降、湯河原との関係を深めてきました。風景を作品にするだけでなく、小学生への授業や講演、また作品の寄贈など町のために様々な活動をしていただいています。また、今年10月には館内にアトリエが完成し、画材や制作過程の作品を公開しています。今後湯河原十景という作品群を制作していく予定になっています。

湯河原ゆかりの画家についてお話をしました。ぜひ美術館にお出でいただき、実際に作品をご覧くださいいただければ幸いです。ありがとうございました。



出前講座町立湯河原美術館 杉山茂樹学芸員



河野IM実行委員長